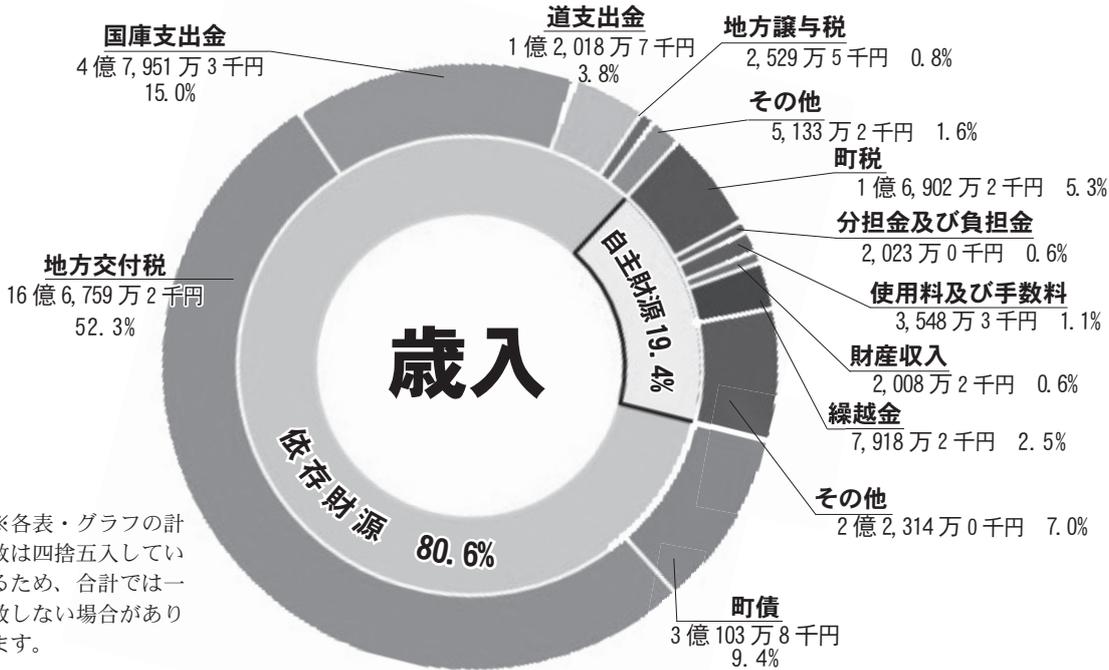


一般会計

歳入決算額 31億9,209万5千円 (対前年度 2億8,487万7千円 増)



※各表・グラフの計数は四捨五入しているため、合計では一致しない場合があります。

令和2年度各会計決算から見るまちの財政事情

もう一度、みんなでの町の財政の現状を考えよう

令和2年度の町の各会計歳入歳出決算が、12月の第4回町議会定例会で認定されました。

町の財政“台所事情”の現状についてお知らせします。

81%が国等の財政支援に依存

令和2年度の一般会計と特別会計を合わせた歳入総額は38億3,202万円(前年度比3億2,313万円、9.2%増)、歳出総額は37億3,391万円(前年度比3億4,200万円、8.9%増)、差引9,810万円で、翌年度に繰り越して実施する特定事業の財源を除いた実質収支は8,267万円でした。また、町税や各種使用料の滞納が増えています。

特別会計への繰出 1億2千万円を超える赤字補填

2年連続の黒字を維持しているものの、この主な要因は、普通交付税の増額や特別交付税の除排雪費の増額で、歳出では、コロナ感染拡大緊急事態措置等による催事や集会所、公共施設等の利用制限など事務事業費の臨時的・特殊な歳出の減によるもので、財政運営の厳しい状況に変わりありません。

また、特別会計では、赤字の発生・累積化を回避するため、一般会計から総額1億2,500万円を繰入して赤字を補填している状況にあり、独立採算制を基本とする各特別会計は依然として厳しく、一般会計の財政運営に特に大きな影響を及ぼしています。

町税・使用料の滞納は行政サービスの水準維持を困難に!

こうした厳しい財政状況下では、これまでも増して、町の厳しい財政構造や限られた歳入財源で、「健全財政の維持」、「公共行政サービスの維持向上」、「地域の活性化」という3つの町の課題の克服と両立を図ることの重要性に対する町民の皆さんとの認識の共有が大切です。

特に、国保税や町営住宅使用料、水道使用料等の滞納による収納率の低下は、現状の除排雪や医療保険、ゴミ収集、水道水の安定供給など身近な公共行政サービスの水準維持を困難にし、私たちの日常生活に大きな影響を及ぼします。

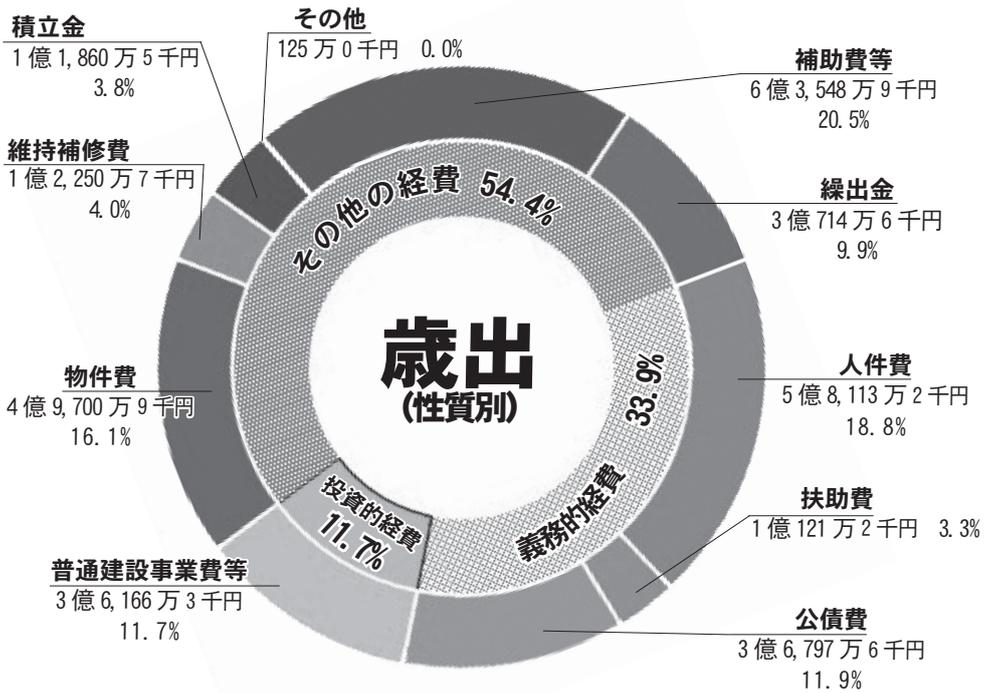
町民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

一般会計

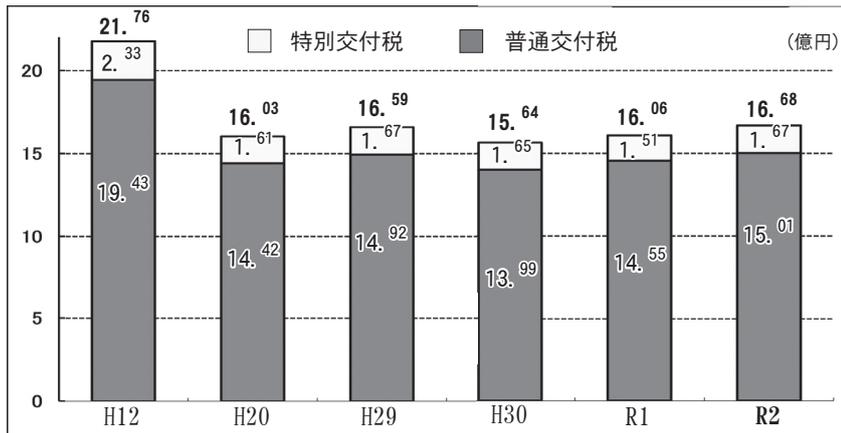
歳出決算額 30億9,398万9千円 (対前年度 2億6,595万3千円 増)

歳出 (目的別)

区分	歳出額	構成比
議会費	55,969	1.81%
総務費	978,133	31.61%
民生費	565,111	18.27%
衛生費	142,481	4.61%
農林水産業費	174,529	5.64%
商工費	119,905	3.88%
土木費	244,496	7.90%
消防費	218,788	7.07%
教育費	224,988	7.27%
公債費	367,976	11.89%
その他	1,613	0.05%
合計	3,093,989	100%



地方交付税の推移



一般会計歳入の52%を占める地方交付税は、自治体が地域社会の維持・再生に向けた施策に自主的・主体的に取り組むための経費「地域社会再生事業費」の創設等により、令和元年度年度比6,200万円の増。

地方交付税の使いみち

	地方交付税	比較	主な使途経費 (①+②+③+④+⑤)	過不足額
H30	1,564	<	1,706	△142
R1	1,606	<	1,721	△115
R2	1,668	<	1,992	△324

積丹町の地方交付税の使途は、①人件費、②扶助費（医療費等）、③公債費（借入金償還費）、④補助費等（消防組合の負担金等）、⑤特別会計繰出金の義務的・固定的な支出だけで占められ、なお、不足している状況です。

監査委員の意見 (抜粋)

■簡易水道事業特別会計

経営健全化審査において、資金不足は発生していない。引き続き、適切な経営方針のもとに、企業経営の健全化に一層努力されたい。

■下水道事業特別会計

経営健全化審査における資金不足は発生していないが、基準外繰入金37,720千円を補うため、一般会計からの繰入金で処置している。

基準外繰入金37,720千円は、収入総額の48.9%を占めており、これが改善のため、適切な経営方針のもとに、企業経営の健全化に一層努力されたい。

■産業交流雇用対策推進事業特別会計

経営健全化審査における資金不足は発生していないが、基準外繰入金35,937千円を補うため、一般会計からの繰入金で処置している。

特別会計

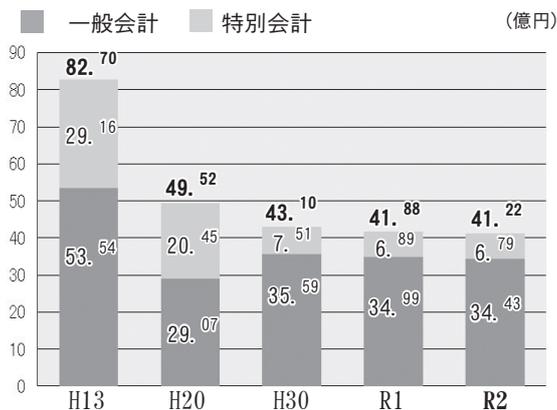
歳入歳出決算額

会計名	歳入決算額 (注)		歳出決算額
	一般会計からの繰入金 (内 基準外繰入金)		
簡易水道事業	1億9,431万4千円	4,964万4千円 (0円)	1億9,431万4千円
国民健康保険事業	事業勘定	1億3,636万5千円	3,480万5千円 (118万6千円)
	直診勘定	7,313万9千円	2,992万8千円 (2,848万4千円)
下水道事業	7,709万8千円	5,471万3千円 (3,772万0千円)	7,709万8千円
介護福祉サービス事業	4,143万2千円	2,473万7千円 (2,194万6千円)	4,143万2千円
産業交流雇用対策推進事業	7,676万5千円	3,593万7千円 (3,593万7千円)	7,676万5千円
後期高齢者医療	4,081万5千円	1,611万7千円 (0円)	4,081万5千円
合計	6億3,992万8千円	2億4,588万1千円 (1億2,527万3千円)	6億3,992万8千円

(注) 基準外繰入金とは、赤字補填のこと

まちの地方債(借金)と基金(貯金)の現状は？

地方債残高の推移



地方債を活用した事業の一例

高規格救急車両購入事業



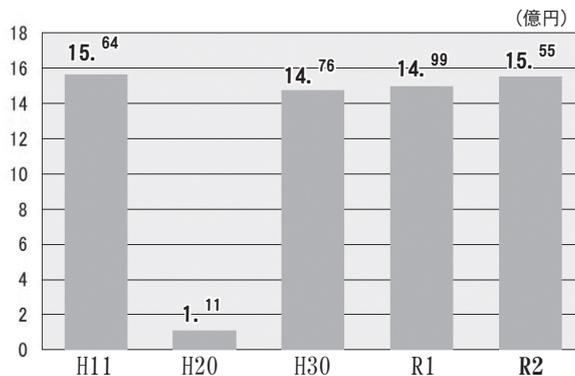
総事業費：2,258万円

・過疎対策事業債：2,090万円

(注) 総事業費には、車両本体費が、寄附車のため含まれていません。

基金積立金の推移

～後志管内基金保有高 19 町村中、13 位～



令和2年度は、減債基金に5,802万円、ふるさと振興基金に3,827万円など合計1億2,014万円を新たに積立て、減債基金などから6,431万円の取崩しを行い、19基金の総額は15億5,487万円の保有残高です。

【基金残高の内訳】

- 1位 減債基金 ※4億3,264万円
- 2位 備荒資金 3億9,685万円
- 3位 財政調整基金 3億56万円
- 4位 ふるさと振興基金 ※1億497万円
- 5位 土地開発基金 7,730万円
- 6位 公用及び公共用施設整備基金 7,575万円

(注) 全19基金 ※前年度より増えた基金

(注) 備荒資金3億9,685万円と土地開発基金7,730万円を含む。

(注) ふるさと振興基金は、ふるさと納税の返礼品等経費を差し引いた残額の積立てが主なものです。